

いたわり

2012年4月号 No.135

〈おりのキュート〉健康新聞

ワンポイントの健康教室

第248回 「〈おりのキュート〉王名店健康教室」
〈日時〉4月19日(木) 午後2時~3時
〈場所〉〈おりのキュート〉王名店 2階 健康教室

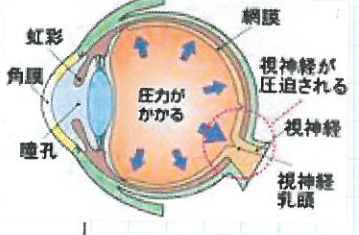
第26回 「緑の輝き クロレ工業見学ツアー」
〈日時〉4月18日(水) 午前10時~午後3時
クロレ工業 九井工場(筑後市) → 自然食ヴィキング「ティア」

「503」日本30日の体験談

天水町在住。Kさん78才男性。この数年新聞の字が見えにくくなり、Xがネガ合わなかったのE3とXがネ屋に行きた所。眼科の検診を勧められる。眼科に行ったら、緑内障がかなり進んだ状態で、眼圧が正常(10~20mmHg)の倍の40mmHgあり。このままでは失明と言われた。奥様からすぐ相談を受け迷わず503を飲みました。緑内障は、失明原因の第1位を占める病気で「房水」という目の中を循環する液体が、流れるのが詰まり、眼の中にたまった水が眼圧を上げて視神経を圧迫して視野がだんだんに欠けていきます。緑内障の進行は常に一方通行であり、一度欠けた視野を取り戻す事はできません。少しでも進行を遅らせるのが現代の治療法です。目薬で改善しない場合は、レーザー治療、それでもダメなら手術となります。Kさんは眼圧がかなり高いため、熊本附属病院での手術を勧められました。店に来て11日、503が詰まったのを掃除する事、肝臓と元気にする事をお話し。毎日1本ずつ飲んで11日たきました。

実は、Kさんは重度の「アルコール依存症」で、どんなに家族や医師までも言ってもお酒を止めず、503を飲んで半日した時、精神的にショックな事が起こり、一晩で焼酎を一升も飲んでしまった!と娘さんから連絡がありました。おじKさんに店に来て11日、肝臓は密接な関係にあり、今までのアルコールの付けが目にきて、緑内障を呼んだのだから、お酒は御法度と説明しました。なんとその日から一盃も飲まなくなり、ご家族からとても感謝されました!!

ちよと503を飲んで33日目に、大学病院に手術を前提とした検査に行かれました。検査後、娘さんから電話...
「先生! 父の眼圧が40から7に下がっていました! 片方の眼圧も11しかなく、全く手術の必要なし!! ドクタが手術の紹介状を持ってきて、重度の患者のはずなのに...?? と首をかしげていました。本当にありがとうございます。503のおかげです!!」
焼酎一升飲んでも、肝臓を元気にして、眼圧も正常にして失明から救った503! やっぱりスゴイです!!



「自然死」のすすめ (中村仁一 著書より)

著者は特別養護老人ホームの常勤の医師で、12年間で最後まで点滴も酸素吸引も一切しない「自然死」を数百例、見えました。癒さずとも、何の手出しもしなければ全く痛まず、穏やかに死んで行くのだそうです。



「自然死」は言わゆる「餓死」(飢餓・脱水)で、死に際は何も医療措置を行わなければ、夢のツツの気持ちの良い穏やかな状態で死に至るといふ事です。自然はそんなに苛酷ではなく、私達の「先祖はみんなこうして無事に死んで行った」ので、この30~40年死にかけると病院に行くよになり無事に死ねなくなり、病院はできるだけの事をして延命を図るのが使命です。食べられなくなれば鼻から管を入れたり胃ろうと言ってお腹に穴をあけ、そこからチューブで水分を補給して、脱水なら点滴を、貧血なら輸血を、小便が出なければ利尿剤を、血圧が下がれば昇圧剤という様な事です。これらは、せっかく自然が用意してくれ、ほんやりと不安も怖ろしいも感じない「幸せ」の中で死に候を壊しているのです。私達は枯れかけている植物に肥料をやさすでしょうか? 万一、肥料をやさしても吸収しませんが植物に害はありません。ところが人間は体内に「肥料」をドリルトから無理やり突っ込んであげて、いかに死にゆく人に苦痛と負担を与えている事でしょう。

人間は生きていく為には飲み食いしなくてはなりません。ところが生命力が衰えてくるとその必要性がなくなるので、「餓死」は脳内にモルヒネ様物質が出て、111気持ちになつていいます。また「脱水」は血液が濃く蒸着子と意識レベルが下がり、ほんやり状態になります。それから死に際になると呼吸状態も悪くなり酸欠になります。その時に脳内モルヒネが分泌されるので、死というのは自然の営みであり、痛みや苦しみを、この世からあの世に移行する事なので、家族の「できるだけ手尽すよ」が「できる限り苦しめる」となっているのが現状なのです。

著者は「死ぬのが楽に死ねる」と言っています。理由の1つは、じわじわと弱るために「周囲に死にゆく姿をきちんと見せられる(死にゆく姿を見せられるが、生まれた人間としての最後の務めと考へている)もう1つは、身辺整理ができ、お世話になった人達にちゃんとお礼やお別れが言える。癒は痛まず!! 痛むのは放射線や抗癌剤などで痛みつけるからだと、確信を持っています。

癒は身体の中に発生した命令に服さず、勝手に増殖する異分子なので、これを敵とみなして、やっつけるのは自然のしくみです。ところがこのしくみは年とともに衰えます。したがってお年寄りに癒が増えるのは当然の事なので、繁殖を止めて死ねるというのは自然界の「掟」です(一説によると繁殖を止めて何十年も生き続けるのは人間とゴンドラクジラのみにあつた)。ゴンドラクジラは若いうちは若くして死んでいくが、種を繁栄に貢献しているからと、何の手出しもせず、生存をじがければ、ゴンドラは痛まず、穏やかに死ねるので、老人ホームでは、入居したご本人が癒と診断されたら、家族(側)から高齢なのに苦しむ治療はせたくないと、そのまま治療をしないケースがほとんどで、それは患者は癒の痛みが全く出ないそうです。

これは著者いわく、繁殖期を終った老人の方々の癒の話ですが、... 若者や私達の世代の人間は「がん検診」で癒が見つかるしまうと、じわじわと癒されて、特に「余命宣告」などされたら、医療の治療の中で生きて行く人がほとんどだと思ひます。もし「早期癒」治療して助かったとしても、一生不安と共に生活して行くはかりません。私はこの本を読んで、親に苦しい思いをさせてまで延命させたくな。私自身は「がん検診」を受けたい!! と、おつと503を飲んで行こう! と心に決めました。